

第十回首都防災ウィーク記念資料集 目次

★令和4年（2022年）8月27日（土）～9月4日（日）9日間（34イベント）

主催者・来賓ご挨拶

| | |
|----------------------------------|---|
| 首都防災ウィーク実行委員長 中林一樹氏 | 1 |
| 墨田区長 山本 亨氏 | 2 |
| 公益財団法人東京都慰霊協会理事長 住吉 泰男氏 | 2 |
| 公益社団法人全国市有物件災害共済会常務理事 三富 吉浩氏 | 3 |
| 特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト理事長 瀧澤 一郎氏 | 3 |
| 「東京都慰霊堂」(写真) | 4 |

第一部 防災講演会・防災フォーラム 記念論文集

| | |
|--|----|
| 「震災復興 橋に込めた思い」 | 6 |
| 紅林 章央氏（東京都道路整備保全公社 道路アセットマネジメント推進室長） | |
| 「東京都の新しい被害想定とマンション -マンションはどんな被災となるか？」 | 12 |
| 中林 一樹氏（首都防災ウィーク実行委員長、東京都立大学名誉教授） | |
| 「首都直下地震とマンション防災 ～トイレが最重要」 | 16 |
| 鍵屋 一氏（跡見学園女子大学教授、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事） | |
| 「災害時のトイレ事情と首都直下地震時のトイレ問題」 | 19 |
| 山本 耕平氏（ダイナックス都市環境研究所長、 (一社)日本トイレ協会 災害・仮設トイレ研究会代表幹事） | |
| 「マンション防災とマンション管理組合」 | 23 |
| 木村 孝氏（元首都圏マンション管理士会副理事長、 災害復興まちづくり支援機構 第一研究会） | |
| 「マンション住民と地域が如何に連携するか」 | 27 |
| 瀧澤 一郎氏（首都防災ウィーク実行委員会、NPO 法人東京いのちのポータルサイト理事長） | |
| 「防災フォーラム 討論の概要」 | 29 |
| 中林 一樹氏（首都防災ウィーク実行委員長、東京都立大学名誉教授） | |
| 「首都防災フォーラム全体像とバックヤードのご紹介」 | 31 |
| 岡野谷 純氏（総合司会/日本ファーストエイドソサエティ代表） 東京いのちのポータルサイト副理事長 | |
| 「口笛の調べ」 演奏 YOKO（口笛世界大会2018優勝者） | 33 |

第二部 多彩なプログラム

| | |
|--------------------------------------|----|
| 「学生の力を活かした新宿戸塚のまちづくり」 | 36 |
| 児島 正氏、早稲田大学生、新宿区戸塚の皆さん | |
| 「UIFA JAPONの被災地支援その2「だれフォトニュース」の11年」 | 37 |
| 稲垣 弘子氏（UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部)、監事） | |
| 「今日から出来る地震対策—地震時の室内の安全化—」 | 38 |
| 江原 信之氏（(一社)防災機器検査協会会長） | |
| 「みんなで助かろう！ ～(株)土屋の防災1・2」 | 39 |
| 原 香織氏（(株)土屋防災委員会） | |
| 「関東大震災写真展その1・2 被災写真からたどる東京下町六区」 | 40 |
| 小藺 崇明氏（東京都慰協 関東大震災100年事業担当調査研究員） | |
| 「灯」 | 41 |
| 大石 亜矢子氏（シンガーソングライター、全盲） | |
| 「私にできること」 | 42 |
| 片岡 亮太氏（和太鼓奏者、パーカッショニスト、社会福祉士） | |

| | | |
|------|---|-----|
| | 「防災専門図書館紹介動画 東京都復興記念館特別展への共催」 | 43 |
| | (公社) 全国市有物件災害共済会 | |
| | 「防災シンポジウム 災害リスクの見える化 ～防災 DX の可能性と活用に向けて～」 | 44 |
| | 中林 一樹氏 (首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授) | |
| | 「クイズ『穴あき俳句で考える防災』」 | 48 |
| | 藤村 望洋氏 (俳句「ARC セッション」主宰、NPO 東京いのちのポータルサイト副理事長) | |
| | 「障害って何?、障害者って誰?」 | 49 |
| | 浅野 史郎氏 (元厚生省障害福祉課長、元宮城県知事、(株) 土屋総研特別研究員) | |
| | 「防災鼎談・首都を襲う巨大水害 - どう生き延びるか」 | 50 |
| | 中林 一樹氏 (首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授) | |
| | 「首都を襲う巨大水害 - どう生き延びるか」 | 54 |
| | 中瀬 勝義氏 (江東5区マイナス地域防災を考える会/江東区在住) | |
| | 「福祉施設防災 防災訓練パワーアップTV」 | 55 |
| | 高橋 洋氏 ((一社) 福祉防災コミュニティ協会副理事長) | |
| | 「第一回誰でも囲碁大会を主催して」 | 56 |
| | 柿島 光晴氏 (誰でも囲碁大会実行委員長、(一社) 日本視覚障害者囲碁協会代表理事) | |
| | 「第一回誰でも囲碁大会」 | 57 |
| | 岡田 結美子氏 ((公財) 日本棋院棋士六段/誰でも囲碁大会実行委員会副委員長) | |
| | 「誰でも囲碁大会に参加して～高次脳機能障害者と家族」 | 58 |
| | 柴本 礼氏 (高次脳機能障がい当事者家族、イラストレーター、 東京高次脳機能障害協議会理事) | |
| | 「誰でも囲碁大会アンケート結果」 | 59 |
| | 「首都と大船渡との『鎮魂と希望の竹灯かり連携』」 | 60 |
| | 木谷 正道氏 (首都防災ウィーク実行委員会事務局長、碁石海岸で囲碁まつり実行委員長) | |
| 第三部 | Gallery 第十回首都防災ウィーク 写真集 | 64 |
| | 8月27日(火)～5日(日) 首都防災ウィーク特番(みらくルTV) | 65 |
| | 8月28日(日) 誰でも囲碁大会(みらくルTV) | 68 |
| | 9月4日(土) 世界音楽祭(東京都慰霊堂&みらくルTV) | 72 |
| | 9月5日(日) 防災講演会・防災フォーラム(東京都慰霊堂&みらくルTV) | 75 |
| 第四部 | 「人工海底山脈」共同提案(2021年12月、91名)」(転載) | 81 |
| | 関連報道一覧 | 89 |
| | 「人生に寄り添う囲碁レポート『誰でも囲碁大会』」 | 89 |
| | 品田 溪氏 (囲碁ライター、日本棋院コラム(8月30日付け)から転載) | |
| | 『『迫りくる首都直下地震』に備える』 | 90 |
| | 毎日フォーラム・日本の選択 2022年10月 | |
| | 「大江戸あんしんぶん～3年ぶりに対面開催『首都防災ウィーク』」 | 92 |
| 協賛広告 | (株) オリエントタルコンサルタンツ、東京和晒(株)、(株) 土屋、(株) 応用地質 | 93 |
| | (一社) 福祉防災コミュニティ協会、(一社) マンション防災協会 | |
| | (一社) 大船渡市観光物産協会、(株) 高橋三代志工務店 関根税務会計事務所 ライオン(株) | |
| | 第10回首都防災ウィーク全体プログラム | 99 |
| 編集後記 | 木谷 正道 (首都防災ウィーク実行委員会事務局長) | 100 |
| | 原 香織 (みらくルTV番組編成部長) | |
| | 【予告】「第2回 誰でも囲碁大会」 2023年9月3日(日) 日本棋院 | 101 |
| | 【予告】「第8回 碁石海岸で囲碁まつり」 2023年10月14日(土)～16日(月) 大船渡市 | 102 |
| | 【予告】「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」 2023年8月20日(日)～9月10日(日) | 103 |

第10回 首都防災ウィーク 開会あいさつ

中林一樹

実行委員長・東京都立大学名誉教授

2013年、東日本大震災の津波被災地の復興もようやく端緒に着いたものの、その見通しも不明の状況下で、私たち、首都圏で生活し、仕事をし、活動している我々はどのように2023年の関東大震災100年を迎えるのか、との話からこの首都防災ウィークは始まりました。東日本よりもあるかに多くの被害が想定された中、その被害を減らすのは、我々自身である。我々一人ひとりが、自宅を守り、家族を守り、直接死も震災関連死も一人も出さずに生き延びて、首都圏の復興に向かうには、行政でもなく企業でもなく私たち自身が被害軽減に取り組む自助が基本です。

その「自助」の取り組みで、我家と家族の被害をゼロにすれば、隣人を助ける余裕が生まれる。それが「共助」なのです。この自助と共助が、首都直下地震を迎え撃つことを可能にする。そんな思いで集まった市民で、この「首都防災ウィーク」を始めました。

10年目を迎え、この2022年9月1日の大法要が関東大震災99回目であり、翌9月2日からは「関東大震災100年目」になります。

今、世界中で新型コロナと戦って3年目です。日本の累積感染者数は国民の10人に一人の割合を大きく超えてきて、すでに犠牲者は阪神・淡路大震災の6倍を超え、東日本大震災の2倍に達しています。わたしは、自然災害と同様に、新型コロナも、自分で自分を守る「自助」こそが最も基本であると考えて、本年もオンライン（みらくるTV：zoom）でのイベントと震災慰霊堂（都立横網町公園内）でのハイブリッドで開催することにしました。

今も変わることなく、地震や水害から命を守る備えも、新型コロナから命を守る備えも、「自助」が基本です。「感染から自分を守る“自助”」と、「感染さない“共助”」で取り組むことにしました。

しかし私は、感染症に打ち勝ってポストコロナに安全で安心できる社会を迎え、さらにいつ起きても不思議ではない首都直下地震をもみんなで乗り越えるために、「体は三密化防止」ですが、「こころは三密拡大」で取り組むことが重要だと考えています。

関東大震災100の節目の年は目の前です。それを、家族の濃密な絆、地域の親密な絆、仕事の緊密な絆で乗り越え、首都直下地震にも負けない新しい首都圏を創り出していきたいと思っています。その最大のカギは「民の力」です。

そんな思いで、今日から9日間の首都防災ウィークを、首都圏の、昨年に引き続きオンラインを活用して、日本のみならず世界中の一人ひとりが、新型コロナと災害を乗り越えるための自助・共助の取り組みを実行し、仲間の輪を広げ、みんなで助け合える自助拡大・共助創生の地域社会を創り出していく“きっかけ”となることを祈念して、開会のあいさつといたします。

令和4年8月27日

第十回 首都防災ウィーク開催に寄せて



墨田区長
山本 亨

墨田区にも甚大な被害を及ぼした関東大震災から、まもなく 100 年の節目の年になろうとしています。規模の大きな災害であればあるほど、「忘れた頃」に起こるといわれており、首都直下地震は 30 年以内に 70%の確率で発生すると予測されています。

近年国内では、地球温暖化に伴う気候変動等により突発的な豪雨や台風など風水害の被害が増えていくことから、本区においても大規模な自然災害が起こっても機能不全に陥らない、「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた防災まちづくりを着実に推進していくために「墨田区国土強靱化計画」を策定しました。

また、万一被災した場合にも速やかに区民生活の「安定と向上」を図るため、災害復興支援組織の設立等の復興対策にも取り組んでいます。

一方、自分の身は自分で守るという「自助」の意識を持ち、有事の際は的確な行動がとれるよう日頃から準備しておくことも大変重要です。この機会に改めて建物の耐震化はもとより、食糧品や生活必需品の備蓄等についても、それぞれの御家庭で御確認をお願いします。

今回の「首都防災フォーラム」では、「首都直下地震の被害想定とマンション防災」と題してマンション防災の課題や対策についての講演をはじめとして多様なプログラムが企画されています。

本イベントや参加者の交流を通して、命を守る活動の輪がさらに広がり、大きな成果を上げることができるよう御期待申し上げ、私の御挨拶といたします。

第十回 首都防災ウィーク資料集挨拶文

<第十回 首都防災ウィーク開催にあたって>

公益社団法人 全国市有物件災害共済会
常務理事 三富吉浩



私どもは、地方自治の発展と住民福祉の向上を目指し、災害によって市等有する公有財産に生じた損害に関する相互救済事業を実施するため、昭和 24 年に地方自治法第 263 条の 2 に基づき、全国の市が共同で設立した公益的法人でございます。

設立以来、都市における防災、減災に関する様々な事業を実施してまいりましたが、この「首都防災ウィーク」におきましては、微力ながら平成 25 年の第 1 回から参画させていただいております。さて、東京都では、首都直下地震の被害想定を 10 年ぶりに見直し、「東京都の新たな被害想定」が発表されました。建物の耐震化が進んだこと等で、死者数など被害が前回想定より減少していますが、一方では、集合住宅において、地震で排水管等が損傷すると修理が終了するまで、水道供給が再開しても 1 ヶ月以上、トイレが使用できなくなることが想定されています。

今回の防災フォーラムでは、「マンション防災」という見過ごしがちで、かつ大地震の際に避けることのできないテーマにスポットを当て、専門家の方々に御講演をいただくものでございます。

「首都防災ウィーク」を通じ、迫り来る大震災に備え、私たちは今、何をなすべきかを皆様とともに考えてまいりたいと存じます。

公益財団法人東京都慰霊協会 理事長 住吉泰男



2022年「首都防災ウィーク」も第10回目を迎えました。さらに来年は、関東大震災から100年という、大きな節目を迎えます。

防災講演会は、関東大震災という未曾有の災害について、これまでも各界の著名な方々から歴史的な意味あるいは教訓等について語って頂いております。関東大震災は、100年経ってもまだ語り尽くせないほど、多くの教訓を私たちに突き付けている、すごい出来事だったのだという感慨を抱かせてくれます。

関東大震災から100年経った現在、東京の近代まちづくりの原点は、震災復興計画にあるとよく言われますが、今年の防災講演会は、この画期的な都市計画を取り上げます。震災復興計画は道路、公園、河川など多方面にわたっていますが、特に、復興計画の象徴でもある隅田川の復興橋梁に焦点を当て、携わった技術者たちの活躍を通して、復興とは何かを考えます。

また、口笛世界大会2018優勝者のYOKOさんの恒例の演奏も行います。

マンション防災の「明確な解＝携帯トイレの備蓄」が見えた！

特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト 理事長 瀧澤一郎



関東大震災100年まであと1年。首都直下地震がいつ来てもおかしくない状況の中で、第10回首都防災ウィークが開催されました。

今回始めて取り組んだ「マンション防災」というテーマ。マンション暮らしの住民が多数を占め増加傾向の中、ようやくこの問題にスポットが当てられたのはとても価値のある事でした。

建物の耐震強度は強い一方で、地域とのつながりの希薄さや、停電や断水などのインフラ遮断に対して脆弱であるという致命的な欠点が、防災フォーラムにおいて浮き彫りにされました。とりわけ「被災後しばらくはトイレが使えない」という問題は看過できません。

これに対して「携帯トイレの備蓄」という明確な解が提唱された事は特筆に値します。一人が1日で4ケ使うとして4人家族で16ケ。1週間籠城した場合112ケが必要になります。私は早速自分と娘家族の為に400ケの携帯トイレを買いました。このように解りやすいアクションは、様々な機会を通じて多くの皆様に発信して行きたいと思っております。



東京都慰霊堂

1923年9月1日、巨大地震（関東大震災）が発生し、10万5千人が亡くなりました。そのうち3万8千人は墨田区両国の旧陸軍被服廠跡（現東京都立横網町公園）で焼死しました。

1930年9月1日、市民からの拠金、皇室の賜金、内務省や東京市の補助により建立された「震災記念堂」が東京市に寄付されました。これが東京都慰霊堂です。

2013年、関東大震災90年に、首都圏のNPO、研究者、障がい者、音楽家、囲碁棋士などが力を寄せあい、第一回首都防災ウィークを開催しました。

令和5年（2023年）は関東大震災100年の大きな節目です。

首都直下地震は、今、この瞬間に起きても不思議はなく、このままでは破局的な事態が生じます。

首都防災ウィーク実行委員会は、岩手県大船渡市の被災者（東日本大震災）が切り出す100本の竹で「鎮魂と希望の竹灯かり」を制作して慰霊堂を飾り、8月20日（日）～9月10日（日）まで、連続2日間、「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」を開催します。

私たちはあらゆる分野の方々と手をつなぎ、命を守るネットワークを急いで拡げたいと考えています。皆さまからのご連絡をお待ちします。